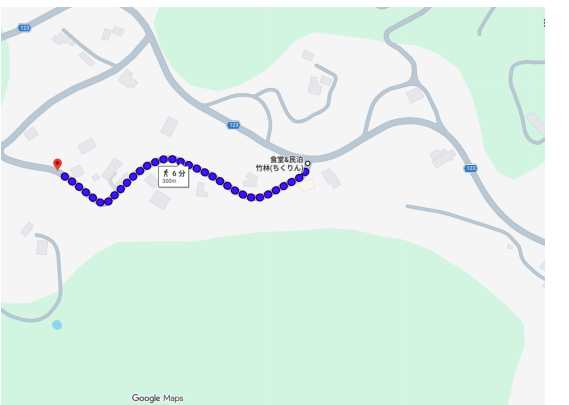
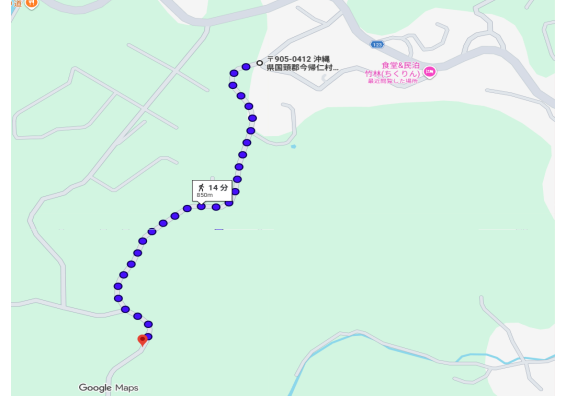


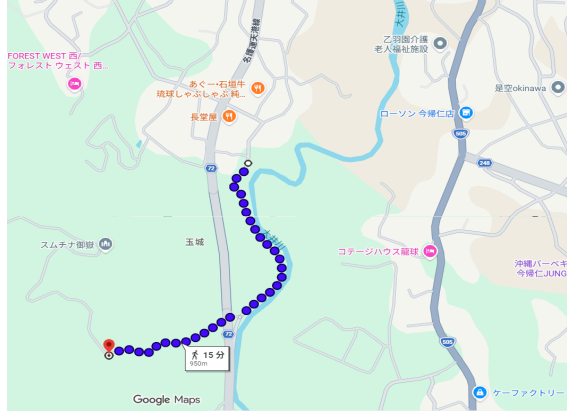


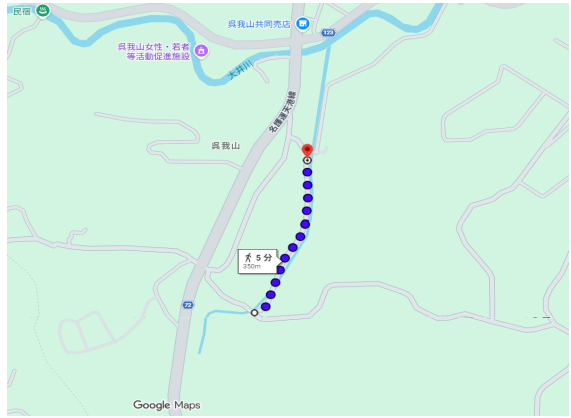
令和7年度沖縄県外来種防除活動支援補助金 活動実績報告書

団体名 一般社団法人沖縄県害虫防除業協会




実施事業名	沖縄県における外来種「タイワンハブ」防除及び駆除			
補助対象事業	外来種駆除等事業			
実施期間	2025 年 12月 15日から 2025 年 1月 7日まで			
実施場所	<人力探索エリア>			
	No	日付	ルート	MAP
	1	12/15 12/22	「26.67815, 127.96840」 ～ 「26.67441, 127.97253」	
	2	12/15 12/22	「26.65528, 127.97737」 ～ 「26.65530, 127.97471」	
3	12/15 12/22	「26.65544, 127.97411」 ～ 「26.64983, 127.97185」		





	4	1/5	<p>「26. 6921149, 127. 9579719」 ～ 「26. 6679242, 127. 9530584」</p>	
	5	1/5	<p>「26. 6930741, 127. 9556566」 ～ 「26. 6896474, 127. 9560206」</p> <p>※上記地点について マップ上にピン止め できないため探索エ リアを赤点線で囲っ ています。河川の両 脇を探索しております。</p>	
	6	1/7	<p>「26. 6726148, 127. 9732853」 ～ 「26. 6674727, 127. 9694987」</p>	




7 1/7 「26. 6506414,
127. 9657560」
～
「26. 6535243,
127. 9667739」



<トラップ捕獲ポイント>

No	設置日時	トラップ設置場所 (GPS)	写真
1	12/5 20 : 30	26. 6781794, 127. 9685374	
2	12/5 20 : 40	26. 6781156, 127. 9688952	
3	12/5 20 : 42	26. 6781659, 127. 9686793	

	4	12/5 21 : 10	26. 6763729, 127. 9700606	
	5	12/5 21 : 40	26. 6551062, 127. 9761361	
	6	12/5 22 : 12	26. 6552569, 127. 9747022	
	7	12/5 22 : 40	26. 6520968, 127. 9722945	

	8	12/5 22 : 50	26. 6504664, 127. 9713900	
	9	12/5 22 : 55	26. 6502369, 127. 9716143	
	10	12/5 22 : 59	26. 6496576, 127. 9716689	

事業の概要	<p><活動概要を記入></p> <p>本事業は、沖縄県外来種防除活動支援補助金を活用し、外来生物であるタイワンハブの効果的な防除手法の検証および、今後の地域における防除体制の構築に資する基礎データの取得を目的として実施したものである。</p> <p>今帰仁村地内において、2025年12月15日、12月22日、2026年1月5日および1月7日の計4日間にわたり、人力による夜間探索およびトラップ設置を併用した捕獲作業を実施した。延べ35人工・総作業時間86時間の体制により、トラップ10台を23日間設置し、捕獲効率の定量的評価を行った。</p> <p>その結果、捕獲数は2匹となり、トラップによるCPUE (Catch Per Unit Effort) は0.0087匹/trap-nightであった。本結果は、当該地域におけるタイワンハブの生息密度や行動特性を把握するうえでの基礎資料となるものであり、単一手法による捕獲の限界および複合的な防除手法の必要性を示唆する結果といえる。</p> <p>また、本事業を通じて、人力探索およびトラップ設置それぞれの作業効率、安全管理上の課題、環境条件と捕獲成果の関連性について検証を行い、今後の防除活動における人員配置や機材運用の最適化に資する知見を得ることができた。</p> <p>本活動により得られた捕獲実績、環境条件、安全管理上の改善点等の情報は、今後の外来種防除事業の計画立案や実施体制の検討において活用可能な基礎資料となるものである。</p> <p>当協会では、捕獲成果のみならず、防除手法の有効性および課題を含めた実務データの整理・共有を通じて、行政機関および市町村からの外来種防除に関する相談に対し、実証結果に基づいた助言および協力を行う体制の構築を進めている。</p>
-------	--

<活動内容詳細レポート>

1. 活動実施詳細

- **実施場所（住所・地番・目標物）** : 今帰仁村地内
※詳細実施地点は上記実施場所を参照

- **実施時間** : (移動時間は除く)

2025年12月15日 (晴れ、16℃)

開始 20 : 00 終了 24 : 00 (計 4 時間)

2025年12月22日 (曇り、17℃)

開始 20 : 00 終了 22 : 00 (計 2 時間)

2026年1月5日

開始 20 : 00 終了 22 : 00 (計 2 時間)

2026年1月7日

開始 20 : 00 終了 22 : 00 (計 2 時間)

累計4日間 10時間

- **実施内容** :

探索 捕獲 トラップ設置 トラップ点検 住民聞き取り 環境調査 安全確認 その他 ()

※タイワンハブは夜行性のため夜の実施としています。

- **参加者** : 協会会員企業を中心に実施

氏名	所属	役割	日付			
			2025年		2026年	
			12/15	12/22	1/5	1/7
玉城あきこ	一般社団法人沖縄県 害虫防除業協会	捕獲	○	○	○	○
浜川雄貴		探索/捕獲	○	○	○	○
新垣満寛		探索/捕獲	○	○	○	○
森岡航		探索	○	○	○	○
大城幸司	ペストマネージ沖縄 株式会社	探索		○	○	
仲地良		探索				○
金城夏樹		探索	○			
佐久田朝斗	合資会社 ことぶき産業	探索	○	○	○	○
仲宗根隆平		探索	○	○	○	○
吉村正志	琉球ネイチャーポジ ティブ	アドバイザー		○	○	○

- **延べ人工数及び時間** : 35人工 86時間
- **トラップ設置数** : 10台

- 延べトラップ設置日数 : 23日間
- 実施内容 :
 - 探索 捕獲 トラップ点検 住民聞き取り 環境調査 安全確認
 - その他 ()

2. 捕獲結果

- 捕獲数 : 2匹
内訳 :

日時	区分 (成蛇・幼蛇)	捕獲位置 (GPS) GoogleMap共有リンク可	状況
	サイズ (cm)		
1月5日 23:00	成蛇・幼蛇・不明	26.6781659, 127.9686793	1つのトラップにタイワンハブ2匹を捕獲
	2匹とも30cm程度		

～ ～ 殺処分直前 ～



- CPUE (Catch Per Units Effort) “捕獲個体数 ÷ (捕獲機設置台数 × 捕獲機設置日数)” = $2匹 \div (10台 \times 23日) = 0.0087$
 タイワンハブ防除マニュアル (令和3年12月 沖縄県衛生環境研究所) のレポートP27の計算式 (捕獲個体数 ÷ (捕獲機設置台数 × 捕獲機設置月数)) にあわせると0.2となります。
 ※本報告では、実務実態に即した評価として、捕獲機の実稼働日数に基づくCPUE (0.0087匹/trap-night) を主指標として採用します。一方、既存文献との比較のため、月数換算による参考値 (0.2) も併記したが、これはあくまで文献比較用の参考値であり、本事業の評価指標とは区別して扱う。

3. 環境・行動特性の記録

- 発見状況 :
 トラップ3は小川の側溝上部に設置したが、東側数先には畑があった

- その際の環境条件：
気温17℃、湿度86%、雨上がり（18時頃に降雨あり）
- 行動特性：
トラップからハブ取り棒をして取り出す際に、威嚇体勢をとる
- 周辺に餌資源となる要素の有無：
水辺が近く農園が隣接していた。農産物を狙うネズミなどの生息域にも近いと推測される。

4. 安全管理・ヒヤリハット報告及び

危険事象	対応措置	改善案
タイワンハブは枯れ葉、木などの同系色のため見分けがつかない。設置をする際に咬傷の危険性がある。ポイントにトラップを仕掛ける際に素手での作業を実施してしまった。	気づいた時点ですぐに防蛇手袋を着用するよう呼びかけ。	トラップ設置担当者は固定し常に防蛇手袋を着用することとする
斜面での設置作業での転落ぎみとなった	その場にあった木々の幹を手すり代わりに利用	・斜面での作業の際は足場の確認や傾斜の緩い地点からの進入をする
幅40～60cm、深さ1m程度の側溝を飛び越えてまがなければならなかった。側溝への転落や、転落した際頭を打つ可能性が高い。	広めの場所を選んで飛び越えてしまった。	・無理にまたぐのではなく、脚立などを活用する ・ヘルメットを着用する
狭隘地、斜面での運転による接触やスリップの可能性があった。	トラップ設置者、タイワンハブ探索者がタイヤの空回り音を聞き、急遽誘導員を兼務した	狭隘、斜面では一通りの作業が終わってからの自動車の移動をする。その際には
夜間作業のため視認性が非常に悪かった	第三者が作業状況を把握しやすくするため急遽胸や背中に「組織名」と「補助事業名」を記載した紙をベスト代わりに貼り付け、作業した。	先に加え、反射素材がついたベストの着用必要

7. 総括・次回への改善点

【検証結果】

本事業では、人力探索とトラップ設置を併用し、タイワンハブ防除における各手法の有効性を検証しました。CPUEの結果から、トラップ単独による捕獲効率は限定的である一方、人的リソースを抑えつつ長期間稼働できる点において有効な基礎手法であることが確認されました。一方、人力探索による直接捕獲については、本事業期間中に捕獲実績は得られませんでした。しかしながら、これは人力探索が無効であることを示すものではなく、事前情報の集約度や個体行動の把握が不十分な状態では、費用対効果が著しく低下する可能性があることを示す検証結果といえます。

当初は、経験則に基づき生息が想定される地点において人力探索を行うことで一定の捕獲成果

が得られる可能性を想定していたが、実務を通じて、トラップによる事前捕獲・行動把握を行わない状態での人力探索は、効率性の面で課題が大きいことが明らかとなりました。

【次回に向けた展開案】

これらの結果を踏まえ、当協会では、「トラップ」「人力探索」「技術的知見」を組み合わせたハイブリッド型防除手法が有効であるとの仮説に至っています。

具体的には、まずトラップによってタイワンハブを捕獲し、個体にGPS等の追跡装置を装着したうえでリリースすることで、行動範囲、潜伏場所、巣の有無、集団行動の可能性等を把握する手法です。その行動データを基に重点地点を特定し、人力探索を投入することで、探索効率を飛躍的に高めた防除が可能となると考えられます。

本報告書で整理した捕獲実績、CPUE、環境条件、安全管理上の課題および改善点は、今後の外来種防除事業における基礎資料として活用可能です。

当協会では、単発的な捕獲成果のみならず、「どの条件下で、どの手法が有効であったか、また有効でなかったか」も含めて整理・共有することを重視しており、行政や市町村からの相談に対して、実務データに基づいた助言・協力が可能な体制を整えつつあります。

以上